

平成 29 年度 獨協埼玉中学校 自己評価シート

目指す学校像	豊かな感性、健康な心と体を育み、自ら考え判断できる生徒を育てる。
--------	----------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学習習慣の定着による基礎学力の向上と教育内容の充実を図る。成績上位者に対して、更なるレベルアップを図る。 学校の情報をPTAをはじめ、外部の方にも効率よく伝える。 学校生活の安全性と快適性を向上させるため、教育環境の整備を図る。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (3月8日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<ul style="list-style-type: none"> 3年で実施した「スタディーサプリ」の学習到達度テストでは、一人一人の弱点が明確になり、高校入学前にやっておくべき内容を把握することができたが、その対策は十分か。 勉強マラソンにより、家庭での学習時間は増えてきたが、結果のフィードバックによる効果が薄れてきた。 以前より成績不振者に対する補習は続けてきたが、成績上位者には教員により、個別に対応してきた。今後は学校としての取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習到達度テスト」は本校の実態に即しているか。また、結果の返却後、動画を利用して復習を十分に行ったか。 生徒一人一人が家庭での学習時間を把握し、正確に申告しているか。また、全体として学習時間は増えたか。 長期休暇中に英語、数学で上位者に対して、有意義な講習を実施することができたか。また、担当教員や参加した生徒の達成感を確認したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習到達度テストの返却在2月後半になり、動画視聴が1ヶ月程度しかいないため、テスト前から事前に視聴、学習できるように体制を整える。 導入した当初は生徒にとっても刺激があり、徐々に学習時間の増加がみられたが、自己申告の信憑性が薄れてきたため、進路指導部が中心となって、実施時期や方法の再検討が必要である。 長期休暇中に上位者対象の講習を設定し、内容の検討、担当者及び参加生徒の選別方法などを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストの対策として事前に課題を設定し、動画の視聴を可能にできたか。また、生徒が取り組む体制を整えることができたか。 今後の勉強マラソンの取り扱いについて検討したか。 家庭学習の実態を正確に把握し、担任や教科担当者は家庭学習の定着を促しているか。 上位者対象の講習を企画し実現できたか。また、担当者や受講生の反応や感想をフィードバックしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度はテスト実施後1ヶ月間しか動画が視聴できなかったが、今年度はテスト前1ヶ月間も事前学習として視聴できるように改善した。 進路指導部を中心に検討は続けており、家庭学習の実態は把握しているものの具体的な改善策は決まっていない。 中学3年約30名、2年約10名計40名の成績上位者に声をかけ、22名が参加した。通常の授業とは異なり、学年を超えた英語での意見交換などかなり刺激的であり、「とても充実していた」という感想が多かった。 	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年は初めての「スタディーサプリ」導入ということもあり、実施後の苦手項目動画の視聴を徹底することができなかった。担任から強く指導し、視聴率を高める。 勉強マラソンを廃止するのではなく、効率を考慮して実施するタイミングや回数を再検討する。 今後も「上位者講習を続けて欲しい」という生徒からの要請もあり、英語検定講習との関係を考えながら更に発展させていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 本校独自の「調べ学習」「プレゼンテーション」「実技科目の充実」などの実態を検証、改良し、外部にわかりやすく伝えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「調べ学習」「プレゼンテーション」「実技科目の充実」などの実態を検証したか。また、外部への発信は十分か。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校で実施しているプレゼンテーションをはじめとするさまざまな取り組みを見直し、更に発展的で充実したものにする。また、説明会や保護者会で伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在実施している発表に関する取り組みを把握して学校全体の取り組みとして位置付けているか。また、説明会や保護者会で伝えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地理、歴史、理科の実験や自由研究レポート、総合学習などで調べ学習、プレゼンテーションを実施している。文化祭や説明会で掲示し、紹介も行った。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現在実施している黒板や模造紙を使ったプレゼンテーションだけでなく、プロジェクターを利用し、ディスカッションを充実させたい。
	<ul style="list-style-type: none"> 教育現場のICT化が求められているが、本校にとってどのような機器が必要かつ有効であるか。委員会を設置し、様々な研究会に参加して、次年度には活用できる体制を 	<ul style="list-style-type: none"> ICT委員会を発足したか。また、検討は進んでいるか。研究会への参加や内容報告は行われているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会メンバーを委嘱し、定期的に会議で検討を重ねる。また、様々な研究会やイベントに参加して、その情報を職員会議などで発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT委員会を発足したか。委員会での検討や報告は行われたか。具体策などが検討されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会を発足し、研修会への参加及び報告が行われた。また、本校にとって何が最も効果的かを検討しているが、最終的な結論には至っていない。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2018年度の導入と利用状況を確認、検証したうえで、更に何が必要かを検討し、利用効率を高めていく。

学校関係者評価
実施日 平成30年5月12日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 家庭でかなりの時間スマートフォンを操作している。スタディーサプリを視聴しているようではあるが、保護者は判断できない。視聴率を高める工夫をお願いしたい。 生徒自身の部屋はあるが、様々な誘惑(スマートフォン・漫画・テレビなど)があり、集中できないのが現状である。家庭でも勉強マラソンを意識して、指導を続けたい。 生徒たちにはかなり刺激になっているようである。高校での選抜クラスを意識して上位者講習に参加できるように頑張っている生徒もいるようである。今後是非、続けていただきたい。 社会人にとって、人前でのプレゼンテーションは非常に重要であり、学生の内から慣れておく必要がある。プロジェクターの整備を整え、このような機会を増やしていただきたい。 現在、どのような機器がどの程度利用されているのか。獨協埼玉中学として本当に効果的なものを検討して整備していただきたい。